

スポーツのきっかけづくり

桐蔭横浜大学 田中ゼミ チームH

○和田 華澄 橋詰 拳士 中尾 信人

1. 緒言

1.1 10代のスポーツ実施率と観戦率の減少

近年、スポーツを実施している子どもと、観戦している子どもの割合が年々減少傾向にある。前者は体力低下につながると考えられ、文部科学省の体力・運動能力調査によると、昭和60年頃から現在まで、この体力低下は続いている。実際に子どもの体力が低下すると、運動能力の低下のみではなく、基礎体力の低下、怪我や病気になりやすい身体になってしまうことが挙げられる。その理由の一つとして、「勉強や習い事で忙しい」が32.1%という割合から、スポーツを実施するための時間のなさが読み取れる。(笹川スポーツ財団 青少年のスポーツライフ・データ 2013)

1.2 社会科見学の現状

表1は、全国の社会科見学施設を、工場の種類という分類でまとめたデータの一部である。この表から、スポーツ施設を社会科見学に取り入れている施設はほとんどないということが見て取れる。そのような子どもたちにも、スポーツに関わることができる機会の提供として、授業の一環である社会科見学到スポーツの導入を推進するという提言を提案する。

表1 全国の社会科見学施設の分類

分類	登録数	分類	登録数
食品工場・お菓子工場	120	JAXA	9
飲料工場	76	発電所	87
自動車工場	25	エネルギーパーク	41
官公庁	22	テレビ局	20

出典：日本おすすめ工場見学・社会科見学ランキング DoCoJapan より作成

2. 研究方法・結果

2015年9月、横浜スタジアムのハマスタ・ツアーに実際に参加した。そこで、見学者を対象とした、アンケートと関係者の方にインタビューを行った。その結果、スタジアムの現状と、政策実施の可能性や課題が得ることが出来た。

2.1 アンケート調査

ハマスタ・ツアー終了後、そこでの参加者の方27名に、「ハマスタ・ツアーとスポーツ経験に関するアンケート」を実施した。

小・中の時期でのスポーツ経験の有無の質問では、「はい」が81%、「いいえ」が19%となり、未経験の子どもも参加している。その中で、「はい」と答えた対象者のスポーツの種類割合(複数回答あり)は、野球37%、水泳19%、バスケットボールとサッカー同率11%、残りその他という結果であった。野球経験のない子どももツアーに参加していた。

小・中の社会科見学にハマスタ・ツアーと野球観戦を導入することの賛否を質問したところ、賛成19人、反対0人、無回答8人という結果となった。

2.2 インタビュー調査

独自の政策提言を行うに当たり、野球スタジアムのツアーの目的や現状について、知る必要性を感じた。そこで、スタジアムツアーを行っている横浜スタジアムの営業部の方2名に、インタビューを実施した。それによって得られた知見は、次のようである。ハマスタ・ツアーの目的は、選手の方々が実際に使用している部屋や、試合関係者の方以外は入室禁止の部屋など、普段の試合観戦では見ることのできない部分を見せることで、野球に興味をもってもらいたい、というものである。ハマスタ・ツアーの参加者は試合観戦に行く者も多く見受けられることから、最終的な目標は、スタジアムの観客動員数を増加させることであるという。ハマスタ・ツアーの現状としては、ハマスタ・ツアーを社会科見学で利用した学校数は、今年1月から3校で、述べ140名である。また、参加している学校は、学年ではなくいくつかの見学場所から、ハマスタ・ツアーを選択した、少人数のグループでの参加が多いと伺った。また、修学旅行の一環で、地方から見学に来る学校もあるという。しかし、見学場所や通路が比較的に狭いため、参加人数は最大50名であるといった上限がある。

3. 提言内容

3.1 社会科見学の見学場所として野球スタジアムを

私たちは、社会科見学の見学場所として、野球観戦と野球スタジアム見学を、全国の小学校と中学校、また教育委員会に対して提言する。

社会科見学の事前学習では、社会科としての体験的な活動のねらいを明確にして、そのうえで事前に必要な知識を習得させる。そして見学地における学習の充実を図る。事後の学習においては見学の要点を的確にまとめ、児童が実物や本物を直接見たり触れたりすることを通して、社会的事象を適切に把握し、具体的、実感的に捉えることができるように指導していく(山口 2010)。

表2は、上記の小学校における社会科見学の事前・事後学習のねらいを踏まえて作成した、見学場所を野球観戦と野球スタジアム見学とした場合のモデル例である。

表2 社会科見学のモデル例

<p><事前学習></p>	<p>内容：野球のルール学習と過去の試合をビデオ観賞 ねらい：見学する上で必要な知識を習得させる。 野球未経験でもルールを知った上での見学により、 知らないために楽しむことが出来ないことがないようにする。</p>
<p><社会科見学当日></p>	<p>内容：スタジアム見学(屋内練習場、控室、記者席、放送ブース、VIP ルーム、監督インタビュースペース、スコアボード操作室、グラウンド、スタンド、ベンチ、ロッカールーム、スピードガン測定、ストライクナインの体験)、野球観戦、選手にインタビュー ねらい：事前学習と社会科見学当日の魅力の違いを発見する。 普段入れない場所を見学、体験させることで関心を高める。 観戦することでチームや選手の影響を受ける。</p>
<p><事後学習></p>	<p>内容：見学や観戦した試合など、見学の要点についてグループでまとめてクラスで発表する。 野球の知識を得て、観た上で実践をする。 ねらい：実践することで、見学で得たものを具体的・実感的に捉える。</p>

3.2 問題とその解決策

費用の問題

現在、野球スタジアムを見学できる場所は全国に8ヶ所あり、地方の小学校・中学校は修学旅行というかたちで、最も近隣のスタジアムを選択すれば、費用も問題ないといえる。

学校教育費のうち、修学旅行・遠足・見学費は、公立小学校では6,019円、私立小学校では38,321円、公立中学校では24,108円、私立中学校では57,490円であった。

3.3 期待される効果

野球スタジアム見学と観戦を社会科見学に導入するという政策である。なぜ、野球なのかというと、「野球」を始めたきっかけとして「チーム」「選手」の影響を受けたとする割合が5割を超えている。(調査報告書)さらに、野球を始めるきっかけとして、野球観戦が関係していることもわかった。また、図1の10代の観戦率をスポーツの種目別で見ると、プロ野球の観戦率が全体的に高いことから、様々なスポーツがある中で、メジャーで且つ子どもたちに人気のある野球観戦と、スタジアム見学もある野球を取り入れることで、普段の体育の授業にはない、スポーツを経験している子どもから未経験の子どもまで、体験

できる場になるからである。野球スタジアム見学における期待される効果は、普段では見学することのできない場所を見学することが出来る。さらに、選手たちと同じような体験をすることが出来ることである。また、観戦における期待される効果は、テレビとは異なる応援のため、選手を近くに感じることが出来ることである。

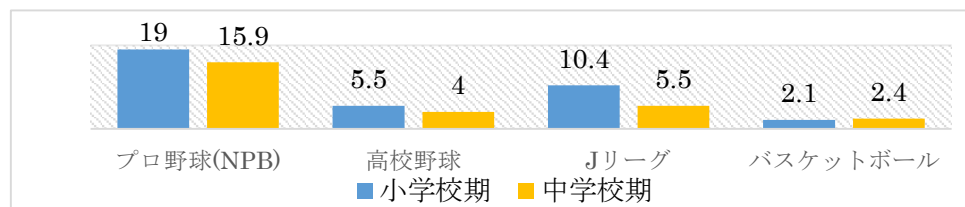


図1 直接観戦したスポーツ学年別の割合(2013)

出典:『青少年のスポーツライフ・データ 2013-10代のスポーツライフに関する調査報告書-』p.56より作成

4. まとめ

今回私たちは社会科見学の施設を工場見学が多い中で、それに代わる野球スタジアムでのスタジアム見学と野球観戦を、社会科見学として学校に推進させる政策を提言してきた。その中で、アンケートやインタビュー、スタジアム見学の日程の関係より、横浜スタジアムを例に挙げた。しかし、全国の球場でも、実施してもらうということも将来的に考えられる。全国の野球スタジアム球場にスタジアムツアーと見学を導入すれば、将来的に、全国の学校から近くの球場に行くことができる。

勉強や習い事で忙しくても、これを通じて、スポーツをしていない子どもにきっかけを与えることができ、結果として、体力低下の防止になることが望まれる。

5. 参考資料

Kid's 習い事・スポーツ Guide

(<http://www.kodomo-naraigoto.jp/info/>) 2015. 8. 15 閲覧

笹川スポーツ財団 編:『青少年のスポーツライフ・データ 2013-10代のスポーツライフに関する調査報告書-』、笹川スポーツ財団、2013. 12、p. 56

統計情報:文部科学省 平成24年度「子供の学習費調査」

(http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa03/gakushuui/kekka/k_detail/__icsFiles/afieldfile/2014/01/10/1343235_1.pdf) 2015. 10. 13 閲覧

日本おすすめ工場見学・社会科見学ランキング DoCoJapan

(<https://www.docojapan.com/factory/>) 2015. 8. 17 閲覧

山口正:「社会科の指導における思考力・判断力・表現力を育む研究-資料を活用した場面におけるの言語活動の充実を通して-」、平成23年度 山梨県総合教育センター 研究報告書 一般留学生 執筆者 山口 正、2010